

カンキツ貯蔵病害に対する防除薬剤の剤型比較

カンキツ貯蔵病害で使用するベルコート（FRAC:M7）はフロアブル剤と水和剤の剤型があるが、フロアブル剤は約5℃以下の低温時には増粘対策が必要であることから、水和剤との比較を行った。

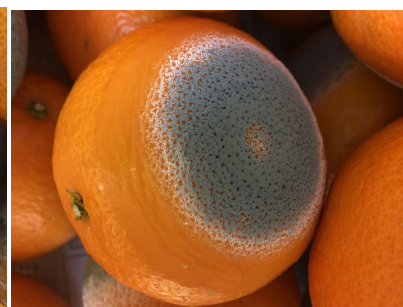
■ 貯蔵病害とは

- 主に収穫後の果実が発生する病害の総称
- 緑かび病と青かび病は発生が多い
- 両病とも病原菌が果実の傷口から感染

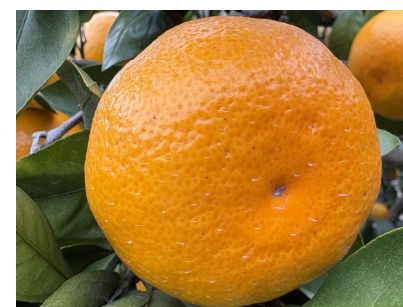
**防除価が大きい剤の方が
効果が高い**



緑かび病

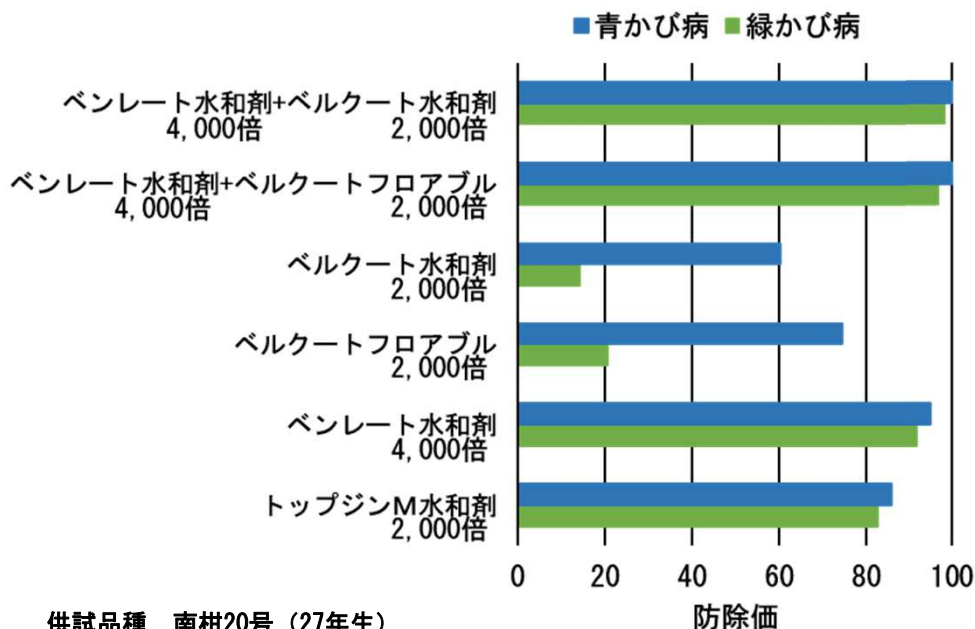


青かび病



果実への薬斑の付着例

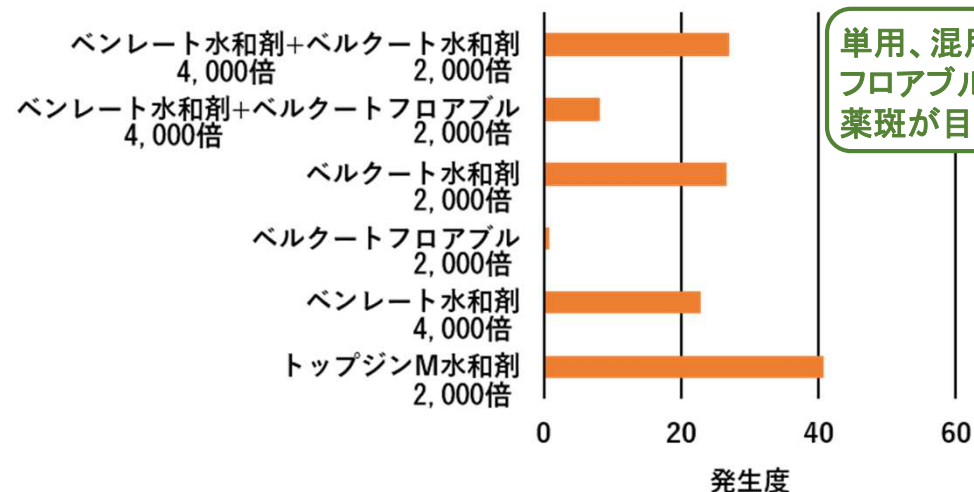
■ 接種試験（緑かび病、青かび病）



供試品種 南柑20号（27年生）
散布日 2025年11月5日
収穫・接種日 11月14日（散布9日後）
調査日 11月20日（接種6日後）

- ・混用では防除価同じ
- ・単剤では、フロアブルの防除価がやや高い

■ 薬斑の付着



単用、混用とも
フロアブルで
薬斑が目立たない

供試品種 南柑20号（27年生）
散布日 2025年11月5日
調査日 11月6日（散布1日後） ※散布～調査間に1.5mmの降雨
薬斑の付着について程度「無・軽・多」の3段階で調査
発生度 $= ((\text{軽} \times 1) + (\text{多} \times 3)) / (3 \times 100 \text{果}) \times 100$ を算出

フロアブル剤と水和剤は適用病害が異なるため、
使用にあたっては登録内容を確認

ベルコートは使用時期や果実への薬斑の付着を考慮して剤型を選択